
東海第二発電所 審査資料	
資料番号	TKK審-29 改0
提出年月日	平成30年7月26日

東海第二発電所 劣化状況評価
審査会合における指摘事項の回答
(照射誘起型応力腐食割れ)

平成30年7月26日

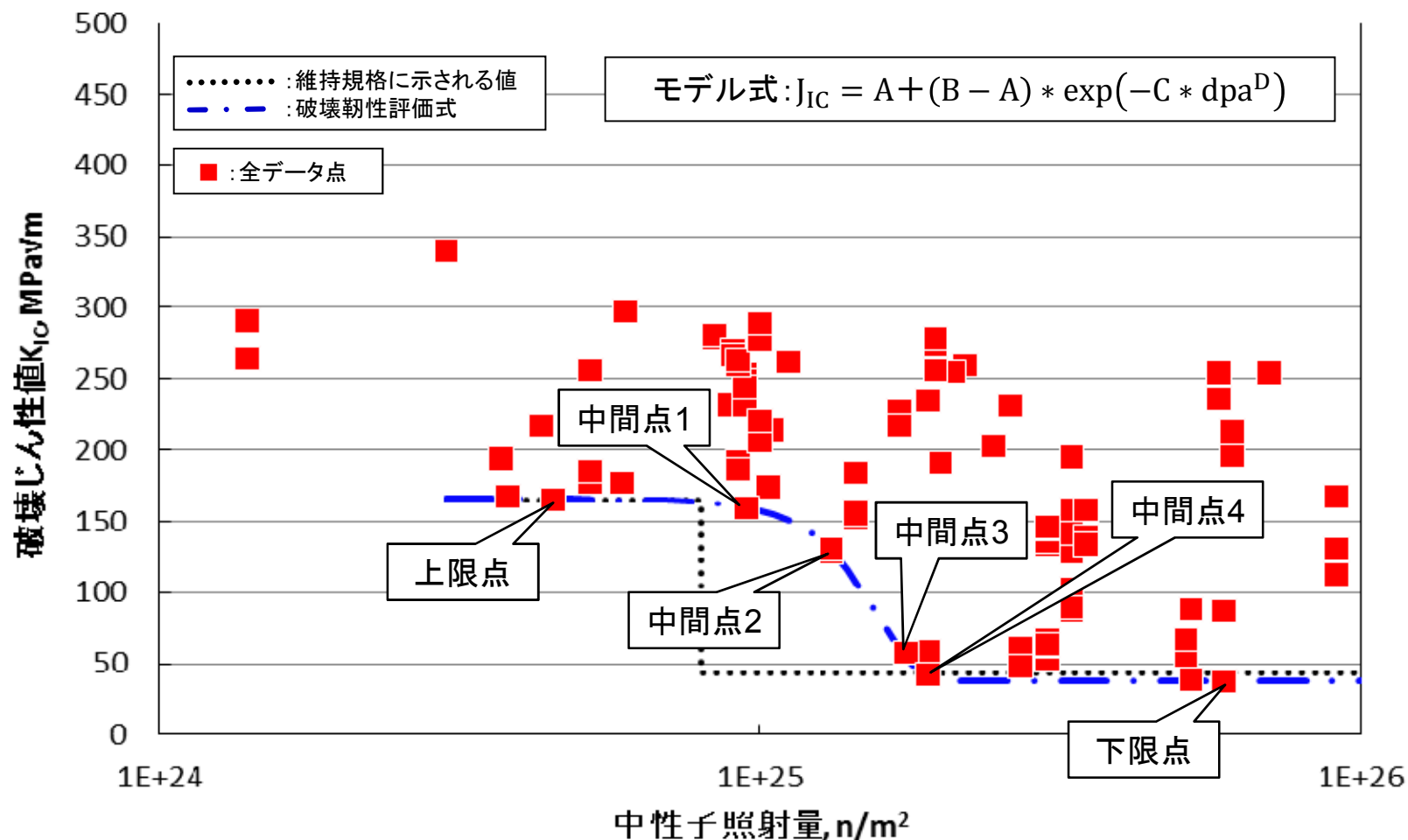
東海第二発電所 審査会合における指摘事項の回答一覧表

No.	指摘事項	回答
0601-1 劣化状況評価 (平成30年7月17日 第601回審査会合)	破壊靱性評価式の誤差を考慮しても保守的な評価であることを説明すること。	平成30年●月●日 P3 ~ P4

破壊靱性評価式の誤差について

1. 破壊靱性評価式の策定

- 下限線をフィッティングする上で、評価式の形状に大きく関わる重要なデータ点(上限点, 中間点, 下限点)を設定。
- モデル式のうち, Aは下限点, Bは上限点とし, 定数C,Dは, 上限点・中間点を下回り, 且つ, 各データ点の破壊靱性値と評価式による破壊靱性値の差の合計が最も小さくなるように設定。
- 下限点は, 評価式による破壊靱性値が下限点を下回らないように設定。



破壊靱性評価式の誤差について

2. 重要なデータ点と破壊靱性評価式の誤差

(破壊靱性評価式) - (データ点)	上限点	中間点1	中間点2	中間点3	中間点4	下限点
誤差 (MPa√m) [%]	-0.0710 [-0.04]	-0.0134 [-0.01]	-11.9947 [-9.36]	-0.0078 [-0.01]	-3.9147 [-9.06]	0.0000 [0.00]
備考			最大誤差			最小誤差

3. 評価における保守性

破壊靱性評価式の誤差は、下限線をフィッティングする上で、評価式の形状に大きく関わる重要なデータ点のマイナス側に設定されているため、中性子照射量を考慮して算出される破壊靱性値は保守側に算出されるものであり、応力拡大係数に対しても保守的な評価結果になるものである。